

Dyson Airstrait™ヘアストレートナー
乾かしながらストレートヘアへ。
過度な熱に頼らない新しいスタイリングを。



ダイソンリミテッド（ダイソン創業者兼チーフエンジニア ジェームズ ダイソン）は、日常的な技術を向上させたいという思いから、本日、Dyson Airstrait™ヘアストレートナーを米ニューヨークにて発表しました。ホットプレートを使わず、過度な熱によるダメージから髪を守り、濡れた髪の状態からストレートにする新しい方法です。パワフルな集中した風が、濡れた状態からドライとストレートを同時に行います。ナチュラルなストレートヘアでツヤのあるなめらかな仕上がりへすばやく導きます。

Dyson Airstrait™ヘアストレートナーは、髪の強さや健康的な質感を保ちながら、自然で動きのあるストレートヘアを実現します。2本のアームで髪を挟み、そこから正確な角度の高圧ブレードを髪に押し当て、1台でドライとストレートスタイルを同時に行うことができます。

ジェームズ ダイソン 創業者兼チーフエンジニアは、次のように述べています。

「Dyson Airstrait™ヘアストレートナーの基本性能である、パワフルな気流をどのようにコントロールし、そのポテンシャルを発揮させるかをしっかりと理解することが大切です。この25年間で培ったノウハウを活かし、ホットプレートを使わず、過度な熱に頼らない、初の濡れた状態からドライとストレートを同時に行うヘアストレートナーです。ストレートアイロンのような使いやすさはそのままに、高速エアブレードを搭載することで、時間をかけず、髪の強度を保ちながら自然なストレートヘアを実現します。」

精密な気流

本体のアームに沿って、1.5mmの開口部が2つあります。この開口部から気流を加速させ、高速の気流が下方向に発生します。45°の角度から噴射され、1つの噴射口へと収束することで、髪を乾かす際に風をコントロールし、ストレートにすることができます。このコントロールされた風で髪を整えなめらかでツヤのある仕上がりへと導きます。



スタイリングを科学する

ダイソンは、10年以上前からスタイルの科学を研究しており、ビューティーカテゴリーにおける研究と技術開発を拡大・加速させるために5億ポンドを投資しています。ダイソンのエンジニアは、髪構造から気流の力学まで詳細に研究し、熱的、機械的、化学的ダメージ、そしてその後の髪健康への影響について理解しています。

髪のスタイリングをするには、髪の毛1本1本の内部の水素結合を切断し、形状を変える必要があります。これには、高温の熱または水分が必要です。濡れた状態から風の力でスタイリングすることで、高温の熱を与えなくても縮れ毛やうねりを抑えられ、自然なツヤが保たれます。

髪が濡れているときは、水分によって髪内部の水素結合が自然に切断されています。この状態であれば、高温の熱を与えなくても、髪が乾けば自然と水素結合が行われます。最適な風量と風の流れをコントロールすることで、よりダメージの少ないスタイリングが可能になります。風でスタイリングすることで、ボリュームと自然な動きを保ちながら、ストレートヘアをつくることができます。髪を乾かし整えた後、さまざまな方法で水素結合を切断することで、ヘアスタイルを固定します。

Dyson Hyperdymium™（ハイパーディミウム）モーター

Dyson Airstrait™ヘアストレートナーは、ダイソンのヘアケア技術の中核をなすHyperdymium™モーターを搭載しています。小型・軽量でパワフルなモーターは、濡れた髪からドライヤーとストレートを同時に行うのに必要な風量を発生させます。13枚羽根のインペラーは最高106,000rpmで回転し、1秒間に11.9リットル以上の空気を送り込みます。これにより、最大3.5キロパスカルの風圧が発生し、髪を乾かしながらストレートにすることができます。また、モーターは27mmと小型で、ハンドルに収まるサイズです。

インテリジェント・ヒートコントロール

ダイソンの他のヘアケア製品同様、Dyson Airstrait™ヘアストレートナーにはインテリジェント・ヒートコントロールが搭載されています。ガラスビーズのサーミスタが1秒間に30回、気流の温度を測定し、熱によるダメージを防ぎ、髪自然な輝きを保護します。このデータはマイクロプロセッサに送られ、ヒーターエレメントを制御し、風量が必要な温度を超えないようにします。

2つのスタイリングモードがあり、温度調節が可能

Dyson Airstrait™ヘアストレートナーには、「ウェットモード」と「ドライモード」、スタイルを固定する「冷風モード」があります。「ウェットモード」と「ドライモード」は、適切な風温と風量の組み合わせで最高の仕上がりになるようにあらかじめ設定されています。「ウェットモード」では、80°C、110°C、140°Cの3つの風温設定があります。「ドライモード」では、120°C、140°C、または「ブーストモード」を選択します。風量調節では、低風量と高風量の2つのスピード設定に加え、コールドショットと根元ドライモードがあります。

*Dyson Airstrait™ヘアストレートナーの日本での発売予定については未定です。製品仕様は変更になる場合があります。

ダイソンについて

ダイソンは、シンガポール、英国、マレーシア、メキシコ、中国、ポーランド、フィリピンにエンジニアリング、研究、開発、製造、テスト事業を展開するグローバルなリサーチ & テクノロジー企業です。英国のコーチハウスからスタートしたダイソンは、1993年の設立以来、一貫して成長を続けています。現在では、シンガポールの St James Power Station にグローバル本社を構え、英国には 800 エーカーを超える広さの Malmesbury と復元された Hullavington RAF Airfield の 2 つのテクノロジーキャンパス、そして世界中に 10 のエンジニアリングおよび研究拠点があります。ダイソンは家族経営のまま、6,000 人の強力なグローバルエンジニアリングチームを含む 14,000 人以上の従業員を全世界に擁しています。ダイソンは、世界 85 の市場において、250 以上のダイソンデモショップで製品を販売しているほか、先駆的なデジタルツールやバーチャル体験を通じてオンラインで製品を販売しています。

ダイソンは、革新的な製品や技術を開発するために 27 億 5000 万ポンドを投資し、エンジニア、科学者、ソフトウェア開発者からなるグローバルチームを編成し、固体電池セル、高速デジタルモーター、センシングおよびビジョンシステム、ロボティクス、機械学習技術、AI 投資の開発に注力しています。1993 年に最初のサイクロン式バグレス掃除機 DC01 を発明して以来、ダイソンは空気清浄、ロボット工学、ヘアケア、照明、手乾燥、そして今年発売された空気清浄機能付きノイズキャンセリングヘッドホン Dyson Zone などオーディオの分野で問題解決技術を創造しています。

[ダイソン インスティテュート オブ エンジニアリング アンド テクノロジー](#)は、伝統的な大学のアカデミックな厳しさと、世界的なテクノロジー企業で製品や技術のプロジェクトに携わる実践的でリアルな経験を組み合わせ、エンジニアリング教育の新しいモデルです。ダイソンの 156 名の学部生エンジニアは、初日から給与が支払われ、授業料は無料です。学部生エンジニアの 37% が女性であり、英国の工学系学部生コースの平均が 21% であるのに対し、ダイソンでは 37% が女性です。ダイソンインスティテュートは、教育だけでなく、ダイソンでのキャリアを加速させるきっかけを提供します。

2022年に設立された[ジェームズ ダイソン財団](#)は、意欲的なエンジニアの育成、エンジニアリング教育の支援、医療研究への投資を行う国際的な慈善団体で、これまでに1億4千万ポンド以上を慈善団体に寄付しています。[ジェームズ ダイソン アワード](#)は、同財団が毎年開催しているデザインコンペティションで、デザインおよびエンジニアリングを学ぶ学生を対象としています。

2005年の開始以来、同賞は世界中で300以上の発明を支援し、その商業化をサポートする資金を提供してきました。ジェームズ ダイソン アワードの過去のグローバル受賞者の70%は、その発明を継続し、フルタイムで追求しています。

ダイソン家は、2012年に[ダイソン ファーミング](#)を設立しました。2019年からカーボンニュートラルを実現し、リンカーンシャー、オックスフォードシャー、グロスターシャー、サマセットにまたがる36,000 エーカー

プレスリリース

2023年5月12日

*本資料は、米国 ニューヨークで2023年5月11日18:30（現地時間）に発表された
プレスリリースの日本語抄訳です。

dyson



ーに及ぶ英国最大級の農業事業者です。英国の農業とカントリーサイドへの長期的な投資に焦点を当てた、他に類を見ない家族経営の企業です。持続可能な食糧生産、食糧安全保障、環境は、英国の健康と経済にとって不可欠です。農業がテクノロジーの革命を推進し、またその逆もしかりです。ダイソン・ファーミングは、効率的でハイテクノロジーな農業と食品生産への新しいアプローチを開発しています。

ダイソン ファーミングは、小麦、大麦、ジャガイモ、タマネギ、エンドウ豆など、さまざまな農産物を生産しており、その生産量は英国最大の単一生産者です。また、牛肉や羊肉も生産しており、隣接する嫌気性消化器によって暖められた15エーカーの最新鋭のガラスハウスでは、季節外れの英国産イチゴを栽培しています。